

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000120		
法人名	株式会社 ライフコンプリート		
事業所名	グループホーム紀水苑 やま・かわ		
所在地	佐賀県佐賀市東与賀町大字飯盛224-1		
自己評価作成日	平成27年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年2月5日	外部評価確定日	平成28年3月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の中で健やかで、心豊かに、自分らしくを理念とし、家庭的な雰囲気第一に考え、毎日の家事等を入居者様個々の能力に応じ役割を持っていただくことで日々の機能訓練ともなっております。入居者様・家族様本位を基本に、できることは自身で行っていただき、さらにできることを増やしていけるよう働きかけ、また、やま棟・かわ棟の方々がふれあえる機会も持ち、日常生活の中で楽しみと笑いをより多く持てるように努めております。ホーム内では、毎日のレクリエーションや月行事として毎月、季節の花々や行事等の貼り絵を入居者様と一緒に作成したり、誕生日会を実施しております。また、地域の運動会や隣接する施設の夏祭りにも参加し、地域社会とふれあう機会を持つようにしております。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は平成12年の開設で、佐賀県下でもグループホームの草分け的な存在である。それだけに利用者の尊厳を最大限に尊重し、あくまでも利用者本位の運営理念「地域の中で、健やかに・心豊かに・自分らしく」の実現に日々心配りを重ねている。利用者がこれまで地域や家庭で過ごしてきた生活が、そのまま続けられることを支援の基本にしている。</p> <p>職員は介護や運営について、意見や提案を出し合い、管理者の適切な指導と相まって、常に質の高い支援を目指している。家族も面会時等におけるスタッフの笑顔と温かい応対に何でも相談できる雰囲気を感じている。</p> <p>事業所の周りは農村地帯の面影が残っており、懐かしい家並みやクリーク、神社、公園、商店があり、散歩時等には利用者の記憶を呼び覚ましている。住民との挨拶や声かけも多い。また、この地域ならではの海岸のシチメンソウ見学や空港近郊のコスモス園へのドライブは、利用者の楽しみの一つでもある。</p> <p>誕生会、毎月の調理の日、知人の訪問、園児との交流、夏祭りへの参加等の行事や利用者主体の一日の暮らしの流れ、その他、利用者の心を満たす運営の工夫を数多く見受けることができる。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑内の目につく場所に理念を掲示し職員全員で共有している。またミーティングや申し送りノートを活用し、常に話し合いの場を作り、理念に沿ったケアの取り組みを日々心がけるよう努力している。	苑内の目につく場所に理念を掲示し職員全員で共有している。またミーティングや申し送りノートを活用し、常に話し合いの場を作り、理念に沿ったケアの取り組みを日々心がけるよう努力している。	全職員で前年度の反省を踏まえて、年度初めに検討を重ね、目標や具体的な方策を話し合っている。理念は職員が目につきやすいように大きく掲示し、日常の支援や会議等でも常に意識しながらのケアである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月回覧板を回してもらい、入居者の方にも見ていただいている。小・中学生の慰問、実習生の受け入れや未就園児のサークルの運動会への参加も毎年している。	毎月回覧板を回してもらい、入居者の方にも見ていただいている。小・中学生の慰問、実習生の受け入れや未就園児のサークルの運動会への参加も毎年している。	地域の河川清掃や神社の祭りには職員もできる範囲内で参加するように心掛けている。法人の夏祭りには地域住民も大勢参加し、交流のよい機会となっている。幼稚園に出向いて園児と利用者の交流や登下校中の小学生と手を振ったり、日常的に挨拶も交わされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来苑していただき入居者様との交流やふれあいの中で、少しでも認知症の理解をしてもらう機会をつくるよう努めている。ご家族より認知症の相談を受けたりしている。	来苑していただき入居者様との交流やふれあいの中で、少しでも認知症の理解をしてもらう機会をつくるよう努めている。ご家族より認知症の相談を受けたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、地区の自治会長・民生委員・家族の代表・地域包括支援センターの方々に参加いただき、情報や意見交換、防災訓練や敬老会等の行事にも参加していただき、意見、評価、助言を受けながら、運営やサービスの改善に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、地区の自治会長・民生委員・家族の代表・地域包括支援センターの方々に参加いただき、情報や意見交換、防災訓練や敬老会等の行事にも参加していただき、意見、評価、助言を受けながら、運営やサービスの改善に努めている。	利用者の日頃の暮らしや行事等の情報提供だけでなく、活発な意見交換や質問等が出され有意義な会議になっている。地域行事の案内、避難訓練時における地域住民の協力の在り方、敬老会への参加、認知症の方の地域での見守り、ワンコインの利用、回覧板の有効な利用等はその一例である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方には毎回運営推進会議に出席していただいている。意見や評価を受けている。入居状況、空床状況を報告し、入居の紹介を受けたりしている。	地域包括支援センターの担当者の方には毎回運営推進会議に出席していただいている。意見や評価を受けている。入居状況、空床状況を報告し、入居の紹介を受けたりしている。	運営推進会議での意見や情報交換だけでなく、必要に応じて市役所の担当課や介護事業所に出向いての課題や情報等の共有ができています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修会に参加したり、苑内では定期的に勉強会も実施し身体拘束について理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。入居者の方が自由に苑内を移動できるようにしており施錠しないケアに努めている。また拘束しないケアの掲示を苑内にし職員が常に意識するようにしている。	外部での研修会に参加したり、苑内では定期的に勉強会も実施し身体拘束について理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。入居者の方が自由に苑内を移動できるようにしており施錠しないケアに努めている。また拘束しないケアの掲示を苑内にし職員が常に意識するようにしている。	職員は、事業所での勉強会や外部での研修会等で身体拘束のリスクをより深く認識している。これまで身体拘束や抑制の事例はない。玄関に施錠等の規制は無く、また、居室では目につかないような人感センサーを置き、利用者に閉塞感を与えないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修会に参加したり、苑内では定期的に勉強会も実施し、職員に虐待防止の徹底を行っている。苑内にも掲示し常に意識したケアに努めている。	外部での研修会に参加したり、苑内では定期的に勉強会も実施し、職員に虐待防止の徹底を行っている。苑内にも掲示し常に意識したケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会の場を作り、学んでいる。	定期的に勉強会の場を作り、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で、契約・解除・改訂等の手続きを行っている。	ご家族に十分な説明を行い、理解・納得していただいた上で、契約・解除・改訂等の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方々の声はいつでも聴き、運営に反映させている。またご家族の意見・要望は来苑時に聞いたり、家族会や介護計画書の説明時にも必ず伺うようにし、運営やケアの改善に努めている。	入居者の方々の声はいつでも聴き、運営に反映させている。またご家族の意見・要望は来苑時に聞いたり、家族会や介護計画書の説明時にも必ず伺うようにし、運営やケアの改善に努めている。	面会時における職員の笑顔のある対応は、家族に何でも相談や要望の言いやすさを感じさせている。ご意見箱も置かれ、利用者や家族からの希望や提案等は、真摯に検討し、運営に反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員のミーティングを開催し、定期的な発言の場を設けている。また意見・提案等あれば随時出す声をかけている。意見・提案には早急に対応、反映するように取り組んでいる。	月1回、職員のミーティングを開催し、定期的な発言の場を設けている。また意見・提案等あれば随時出す声をかけている。意見・提案には早急に対応、反映するように取り組んでいる。	職員とは毎月の会議、毎日の申し送り、随時の打ち合わせなど、意見や提案を聞ける体制にある。職員が忌憚なく意見や提案を出す体制にあり、管理者の適切な指導と相まって、運営に反映することができている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の貢献度、勤務状況等に関する自己評価・上司評価・上司との面接を年2回実施し、評価に応じ賞与・昇給等に反映している。パート職員に対しても年1回、上司評価を実施し昇給に反映している。また、勤務や休暇の希望等に対応できるよう体制の整備に努めている。	職員個々の貢献度、勤務状況等に関する自己評価・上司評価・上司との面接を年2回実施し、評価に応じ賞与・昇給等に反映している。パート職員に対しても年1回、上司評価を実施し昇給に反映している。また、勤務や休暇の希望等に対応できるよう体制の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会だけでなく、フランチャイズ全体の勉強会への参加、外部の研修会では参加費の補助の体制もあり、積極的に薦めている。	内部の勉強会だけでなく、フランチャイズ全体の勉強会への参加、外部の研修会では参加費の補助の体制もあり、積極的に薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの勉強会を実施している。また、年1回交流研修として、1日他のグループホームで勤務し、情報交換の場を作り、サービスの内容や質を見直すきっかけとなっている。	他のグループホームとの勉強会を実施している。また、年1回交流研修として、1日他のグループホームで勤務し、情報交換の場を作り、サービスの内容や質を見直すきっかけとなっている。		

## Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人に面会し、ご本人の気持ちを受容し、共感しながら困っていること・不安なこと・要望等を聞き、日課等継続できることは続けていけるように努めている。	入居前に必ずご本人に面会し、ご本人の気持ちを受容し、共感しながら困っていること・不安なこと・要望等を聞き、日課等継続できることは続けていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずご家族に面会し、ご家族の困っていること、大変なことについて話を聞き、精神的に安心して貰える関わりに努め、希望や要望を受け止め、可能な限りできる対応で信頼していただけよう努めている。	入居前に必ずご家族に面会し、ご家族の困っていること、大変なことについて話を聞き、精神的に安心して貰える関わりに努め、希望や要望を受け止め、可能な限りできる対応で信頼していただけよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の要望を聞いたり、本人の状況を把握し、必要なサービスについて家族と話し合い同意を得ている。訪問診療等他のサービス利用もしている。	本人の状態や家族の要望を聞いたり、本人の状況を把握し、必要なサービスについて家族と話し合い同意を得ている。訪問診療や通所リハビリ等の他のサービス利用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なこと、できることや希望を把握し、できる方には自分のことは自分でしていただき、できない方の分まで協力してもらえるように声をかけ、各自が役割を持って意欲的に、共同生活が過ごせるように取り組んでいる。手伝っていただいたことには感謝の言葉を述べて共同の関係作りをしている。	本人の得意なこと、できることや希望を把握し、できる方には自分のことは自分でしていただき、できない方の分まで協力してもらえるように声をかけ、各自が役割を持って意欲的に、共同生活が過ごせるように取り組んでいる。手伝っていただいたことには感謝の言葉を述べて共同の関係作りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来苑できるように時間の制限は作らず、いつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをしている。体調の悪い時や状況によっては希望で自室に泊まることもでき、ご本人とご家族と過ごせる場作りをし、話し合いの機会を持ち、意見や要望を聞いて取り組みに反映している。	自由に来苑できるように時間の制限は作らず、いつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをしている。体調の悪い時や状況によっては希望で自室に泊まることもでき、ご本人とご家族と過ごせる場作りをし、話し合いの機会を持ち、意見や要望を聞いて取り組みに反映している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人・知人の方がいつでも気軽に面会に来てもらえるよう声をかけている。また、ご家族との外出も自由にでき、法事やお墓参り等行かれ自宅で昼食を摂られる方もいる。隣接する施設の利用者の方で馴染みの方の訪問も受けている。	家族・親戚・友人・知人の方がいつでも気軽に面会に来てもらえるよう声をかけている。また、ご家族との外出も自由にでき、出先で食事を摂られる方や数日間自宅に外泊される方もいる。隣接する施設の利用者の方で馴染みの方の訪問も受けている。	かつて過ごした農村風景が残る所や神社、公園、ストア等に散歩に出かけている。希望によって家族と外出したり、馴染みの美容室を利用したり、自宅での外泊もある。正月には自宅でおせちをいただく方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を充分に把握し、座る位置関係にも工夫を行い、家事等を通じて、皆さんが協力しながら同じ作業をすることで、良い関係が構築できるように支援している。	利用者同士の関係を充分に把握し、座る位置関係にも工夫を行い、家事等を通じて、皆さんが協力しながら同じ作業をすることで、良い関係が構築できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談、支援ができる体制作りを努めている。	必要に応じ相談、支援ができる体制作りを努めている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族からの情報やご本人と話をして少しでも希望・要望が把握できる工夫をしている。意思表示の出来る方、出来ない方、各自の希望や思いをうけとめられるように、話し合いの場で共有し本人本位の実現に向け努力している。	ご家族からの情報やご本人と話をして少しでも希望・要望が把握できる工夫をしている。意思表示の出来る方、出来ない方、各自の希望や思いをうけとめられるように、話し合いの場で共有し本人本位の実現に向け努力している。	利用者ができるだけ自宅と変わらぬ本人本位の生活リズムで過ごせるように支援している。その中で、スタッフも利用者と一緒に過ごす時間を多く取るようにしている。利用者のちょっとした表情の変化、つぶやき、行動からも思いを推測し、支援に活かしている。	
----	-----	---	---	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や環境希望を教えてください、ご本人の意向に沿うことが出来るように努めている。全職員が情報を共有できるよう本人本位の生活を支援している。	入居前の生活歴や環境希望を教えてください、ご本人の意向に沿うことが出来るように努めている。全職員が情報を共有できるよう本人本位の生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、できること、できないことを見極め、できることはしていただき、更に本人の能力や可能性を見つけ、できることが増えるように職員で情報を共有し支援に努めている。	日々の関わりの中で、できること、できないことを見極め、できることはしていただき、更に本人の能力や可能性を見つけ、できることが増えるように職員で情報を共有し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の方の身体的、精神的状況の把握、家族の希望・要望を聞き課題分析し、本人・家族の意向が反映されるように、チームで話し合いながら介護計画を作成している。入院や状態の変化に応じその都度計画の見直しを行っている。計画は本人・家族の同意をもらい全員で共有している。	入居者の方の身体的、精神的状況の把握、家族の希望・要望を聞き課題分析し、本人・家族の意向が反映されるように、チームで話し合いながら介護計画を作成している。入院や状態の変化に応じその都度計画の見直しを行っている。計画は本人・家族の同意をもらい全員で共有している。	利用者や家族の要望を基にして、実現可能な介護計画が作成されている。家族とも十分に話し合っている。担当者会議には主治医や看護師も参加し、本人本位の計画である。担当者会議で、定期的に、又は必要に応じて随時計画の評価と見直しもきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自のバイタル・食事・水分量・排泄・運動レク・外出や体調の変化等、日々の様子を毎日経過記録に記載し、変化や気づきを職員間で共有できるようにしている。改善すべき点や本人の状況に応じ介護計画の見直しをしている。	各自のバイタル・食事・水分量・排泄・運動レク・外出や体調の変化等、日々の様子を毎日経過記録に記載し、変化や気づきを職員間で共有できるようにしている。改善すべき点や本人の状況に応じ介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療等本人の状況変化に応じ、家族の要望・希望・その時々生じることに対応できるように努めている。	訪問診療や通所リハビリ等本人の状況変化に応じ、家族の要望・希望・その時々生じることに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小・中学校の慰問や看護学生の実習を受け入れたり、毎年運動会への招待を受け玉入れ・ダンス・かけっこに車いすで参加したりと、楽しむことができるよう支援している。	地域の小・中学校の慰問や看護学生の実習を受け入れたり、毎年運動会への招待を受け玉入れ・ダンス・かけっこに車いすで参加したりと、楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との話し合いを行い、本人にとって適切な医療が受けられるように支援している。かかりつけ医の定期的な訪問診療を受けたり、緊急時や体調の変化に応じ、その都度受診や相談・助言を受けている。本人の状態に応じ、専門医等の受診・訪問診療を家族と相談しながら行っている。	家族との話し合いを行い、本人にとって適切な医療が受けられるように支援している。かかりつけ医の定期的な訪問診療を受けたり、緊急時や体調の変化に応じ、その都度受診や相談・助言を受けている。本人の状態に応じ、専門医等の受診・訪問診療を家族と相談しながら行っている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医での受診だが、ほとんどが協力医療機関での受診であり24時間何時でも相談ができる体制にある。受診の際は介護タクシーを利用しての支援である。歯科は訪問診療である。看護師は定期的な日時だけでなく、ほとんど毎日、朝・夕も訪問している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に対し、看護師に連絡相談し指示を受けたり、直接対応してもらっている。症状に応じ、かかりつけ医への相談・調整等もしてもらっている。	体調の変化に対し、看護師に連絡相談し指示を受けたり、直接対応してもらっている。症状に応じ、かかりつけ医への相談・調整等ももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし、入院中は定期的に面会すると共に家族や医療関係者から情報をもらっている。退院時には病院より情報をもらっている。	入院時は情報提供をし、入院中は定期的に面会すると共に家族や医療関係者から情報をもらっている。退院時には病院より情報をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルの指針についても文章をもって家族に説明している。また、入居者の方が重度化された時には、家族と話し合い、意向や希望を確認しながら、医療機関との連携をとり、チームで支援するよう取り組んでいる。	入居時にターミナルの指針についても文章をもって家族に説明している。また、入居者の方が重度化された時には、家族と話し合い、意向や希望を確認しながら、医療機関との連携をとり、チームで支援するよう取り組んでいる。	重度化した場合及び「看取り」介護の実施に関する指針が整備され、家族と納得のいく話し合いが持たれている。これまで家族の希望によってその方の人格を尊重した総合的なケアを行った「看取り」の事例や、家族の意向の変化により、「看取り」から病院で最期を迎えられた利用者もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署主催の救命救急講習を受講している。また急変時や事故発生時等の連絡体制を掲示し、勉強会も実施している。	毎年、消防署主催の救命救急講習を受講している。また急変時や事故発生時等の連絡体制を掲示し、勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回夜間を想定した火災訓練を実施していて、一回は消防署立会で指導を受けている。運営推進委員の方にも参加していただき評価や提案をもらい改善に取り組んでいる。	年二回夜間を想定した火災訓練を実施していて、一回は消防署立会で指導を受けている。運営推進委員の方にも参加していただき評価や提案をもらい改善に取り組んでいる。	近所や運営推進会議委員の協力も得ながら、消防計画に基づいての避難訓練が行われている。消防署の指導も受けている。地域の消防団には、訓練実施日以外に苑内の間取り、消火栓場所の確認等、救急蘇生法やAED使用方法も含めての指導、助言をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー保護の勉強会を行っており、入居者の一人一人に合った対応に心がけ、人格を損ねないようケアを行っている。	人格の尊重やプライバシー保護の勉強会を行っており、入居者の一人一人に合った対応に心がけ、人格を損ねないようケアを行っている。	尊厳の尊重をケアの基本にしており、勉強会も重ねている。トイレ誘導や食事介助一つにしてもその方の誇りに十分に配慮している。つい、慣れによる接遇で人格を損ねないように常に自覚しながらの支援である。個人情報もきちんと管理されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の各場面において、本人が選択できるような言葉かけに努めており、衣類を選んでもらったり、歌やレクリエーションの内容を決めてもらったりと、自由に希望を言ってもらえるよう配慮している。	日常生活の各場面において、本人が選択できるような言葉かけに努めており、衣類を選んでもらったり、歌やレクリエーションの内容を決めてもらったりと、自由に希望を言ってもらえるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の一日の流れはあるものの、ホールや自室、またソファでの休息等、個々の希望に沿った生活の支援をしている。	基本の一日の流れはあるものの、ホールや自室、またソファでの休息等、個々の希望に沿った生活の支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回、美容師の方に散髪に来院していただきその方に合った髪形にしてもらっている。本人の希望を聞き更衣やひげそり・爪切り等の支援をしている。	二か月に一回、美容師の方に散髪に来院していただきその方に合った髪形にしてもらっている。本人の希望を聞き更衣やひげそり・爪切り等の支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者・職員が同じテーブルを囲み家族のような雰囲気を作りをして楽しんでいただくようにしている。食後の片付けは出来る方にしていただいている。また、定期的に食べたいものを聞き、準備や下ごしらえ等共に行いながら食事作りをしている。	食事は入居者・職員が同じテーブルを囲み家族のような雰囲気を作りをして楽しんでいただくようにしている。食後の片付けは出来る方にしていただいている。また、定期的に食べたいものを聞き、準備や下ごしらえ等共に行いながら食事作りをしている。	職員も利用者の中に入り、それとなく気を配り、声をかけながら、同じ食事をいただいている。管理栄養士の献立による食事は美味しいと利用者に好評である。毎月2回、利用者に献立の希望を聴いて調理の日があり、職員と一緒に調理をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を把握できるように記録している。また栄養士による栄養管理も行っている。粥食やミキサー食・刻み食等個々に応じた食事を用意している。水分や栄養の確保に好みの飲み物や栄養補給のゼリー等を状態に合わせて摂取していただいている。	一日の摂取量を把握できるように記録している。また栄養士による栄養管理も行っている。粥食やミキサー食・刻み食等個々に応じた食事を用意している。水分や栄養の確保に好みの飲み物や栄養補給のゼリー等を状態に合わせて摂取していただいている。			



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に口腔ケアを呼び掛けている。夜間は義歯を預かり義歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケアの出来る方には自分でしてもらい必要に応じて介助、舌磨きの支援もしている。また訪問歯科診療で個別のケアの指導をうけている。	毎食後、一人一人に口腔ケアを呼び掛けている。夜間は義歯を預かり義歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケアの出来る方には自分でしてもらい必要に応じて介助、舌磨きの支援もしている。また訪問歯科診療で個別のケアの指導をうけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄状況を記録し、排尿間隔をみて声掛けや誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援し、自立に向けての取り組みを行っている。	一人一人の排泄状況を記録し、排尿間隔をみて声掛けや誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援し、自立に向けての取り組みを行っている。	一人ひとりの排泄習慣や排泄パターンの把握ができています。利用者の様子から尿意を察したり、尿意が無い方にも時間チェックにより声をかけています。適切な支援によって紙おむつから布パンツ使用になったり、立位でのトイレ使用ができるようになった方もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分摂取や体操等に取り組んでいる。排便状態を記録し、看護師へ相談、助言を受け早めの対応ができるように努めている。	便秘予防に水分摂取や体操等に取り組んでいる。排便状態を記録し、看護師へ相談、助言を受け早めの対応ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に二日に一回の入浴である。曜日や時間帯はある程度決まっているが、その方々に応じて対応している。入浴を嫌がられる方には時間を置いての再度の声掛けやシャワー浴、清拭対応する等配慮している。体調が悪い方は状態をみて全身清拭、更衣の支援をしている。	基本的に二日に一回の入浴である。曜日や時間帯はある程度決まっているが、その方々に応じて対応している。入浴を嫌がられる方には時間を置いての再度の声掛けやシャワー浴、清拭対応する等配慮している。体調が悪い方は状態をみて全身清拭、更衣の支援をしている。	基本的な入浴日は設けられているが、お湯の準備は毎日できており、希望する方は何時でも入浴できる。入浴時間等に特に制限は無く、ゆっくりと入浴してもらっている。浴室は家庭的であり、冬場はヒートショックに備えた工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・湿度・照明、寝具の清潔にも気を配っている。寝具類は週一回(汚れた時はその都度)交換している。昼間でも希望があれば自室にて休んでいただいたり就寝時間も決まっておらず、安心して眠れるよう支援している。	室温・湿度・照明、寝具の清潔にも気を配っている。寝具類は週一回(汚れた時はその都度)交換している。昼間でも希望があれば自室にて休んでいただいたり就寝時間も決まっておらず、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により看護師の管理のもと一人一人の薬の内容や用法・容量について職員が理解し、確実な服薬、状態の変化の観察に努めている。	医師の指示により看護師の管理のもと一人一人の薬の内容や用法・容量について職員が理解し、確実な服薬、状態の変化の観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じたできることで感謝の言葉を述べ、できた喜び・充実感を感じてもらえるように働きかけている。毎日の家事等の役割、得意の歌や好きな食べ物等の楽しみを支援し、さらに増やしていけるよう努めている。	個々に応じたできることで感謝の言葉を述べ、できた喜び・充実感を感じてもらえるように働きかけている。毎日の家事等の役割、得意の歌や好きな食べ物等の楽しみを支援し、さらに増やしていけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は希望に沿い戸外に散歩に出たり、ご近所の庭で紅葉見物等している。また花の咲く季節には車でドライブをしたり、家族の方と外出もされている。	天気の良い日は希望に沿い戸外に散歩に出たり、ご近所の庭で紅葉見物等している。また花の咲く季節には車でドライブをしたり、家族の方と外出もされている。	天候を見ながら、農村風景の名残りがある近郊や、広い敷地の苑内を散歩したり日光浴をしたりしている。車椅子の利用者にとってもいい所である。介護タクシーを利用してのこの地域ならでのシチメンソウ見学や空港近くのコスモス園にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は原則として行っていない。必要な物はご家族に了解していただき立て替え、後日請求している。	金銭の所持は原則として行っていない。必要な物はご家族に了解していただき立て替え、後日請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年の年賀状には一言でもメッセージを書いていただいている。希望があれば電話できるように支援している。また荷物や手紙が届いた時には、お礼の電話や手紙を送るよう支援している。	毎年の年賀状には一言でもメッセージを書いていただいている。希望があれば電話できるように支援している。また荷物や手紙が届いた時には、お礼の電話や手紙を送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の壁には季節ごとの掲示をし、入居者の方に四季を感じていただけるように工夫している。トイレや居室等わかりやすいように大きめの名札を付けている。ホールや玄関には花を飾る等心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	苑内の壁には季節ごとの掲示をし、入居者の方に四季を感じていただけるように工夫している。トイレや居室等わかりやすいように大きめの名札を付けている。ホールや玄関には花を飾る等心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	フロアの吹き抜けからの自然採光で室内は明るく、エアコンのこまめなフィルター掃除・室温調整と加湿器による湿度の維持と相まって快適な環境になっている。テレビも希望がある時だけの視聴で、静かで、耳障りな騒音もない。利用者はリビングのソファ等でゆっくりと過ごしている方が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブルとソファを置き、入居者の方が好きな所で過ごせるよう配慮している。気の合った入居者さん同士が話せる空間もある。玄関ポーチにはベンチを置き、個々に応じ過ごせるよう場作りをしている。	共有空間にはテーブルとソファを置き、入居者の方が好きな所で過ごせるよう配慮している。気の合った入居者さん同士が話せる空間もある。玄関ポーチにはベンチを置き、個々に応じ過ごせるよう場作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(やま) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かわ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に入居前に可能な限り使い慣れたものや馴染みの物等持ってきていただくよう声をかけており、写真やお気に入りの品、思い出の品等安心できる居室作りに努めている。	ご家族に入居前に可能な限り使い慣れたものや馴染みの物等持ってきていただくよう声をかけており、写真やお気に入りの品、思い出の品等安心できる居室作りに努めている。	馴染みの品物や好みのものの持ち込みに制限は無く、利用者一人ひとりの個性を思わせる落ち着いた居室になっている。お気に入りの服や帽子、好きな雑誌や小説、若い時の素敵な写真、亡きご主人との二人の写真、敬老会や誕生会の色紙等色々な物が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	園内はバリアフリーで各所に手すりも設置されている。自室やトイレはわかりやすく表示している。ホールにはカレンダーや時計を見やすい位置に設置し、声をかけ可能な限り自立した生活ができるように工夫している。	園内はバリアフリーで各所に手すりも設置されている。自室やトイレはわかりやすく表示している。ホールにはカレンダーや時計を見やすい位置に設置し、声をかけ可能な限り自立した生活ができるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない